

位牌はなぜつくらないのですか

2010/1/7初版

Q:位牌はなぜつくらないのですか。(これは遷骨勤行に際してご遺族から発せられたお訊ねであります。)

A.位牌は、浄土真宗では作りません。

1.位牌を作らない理由

位牌は、もともと儒教の風習に基づくものであり、これに日本古来の民間信仰が加って形作られたものであって、浄土真宗のご法義になじまないからです(Ref 末本弘然著『仏事のイロハ』P24)。位牌を作りますと、どうしても私たちはそれにとらわれてしまい、そこに亡くなった方の靈魂が宿るように思うようになりがちです。これでは却って迷いの世にあって迷いを増幅していることにしかありません。

一方、浄土真宗のお救いというのは、南無阿弥陀仏のお名号による救いであります。私たちは、阿弥陀如来の本願力によって廻向されたお名号の働きによって如来様のお喚び声に呼び覚まされて信心を賜り、その後は真の仏弟子としてのお育てに与りやがて浄土往生させて戴くのです。

往生させて戴いた以上はお浄土の土徳によって阿弥陀如来と同等のお徳を頂戴し、今度は、南無阿弥陀仏のお名号の働きと一体になってこの世に還り来って苦悩の衆生(私)に働きかけ、お救い下さるのです。決して亡くなったお方が靈魂のような実体的な姿で私たちに働きかけて下さるのではなく、浄土往生したからには、南無阿弥陀仏のお名号と一つになって、今生の私達に働きかけて下さるのです。

したがって、お救い下さる本体は、あくまで南無阿弥陀仏()のお名号だということになります。御門徒のお家では、お名号は初めに御本山から下付して戴き、お内仏様にお迎えさせて戴いております。そこで、このお名号と矛盾するものは本来作らないようにするのです。

註:お名号は、南無阿弥陀仏が最もよく知られており六字の尊号と称します。この他お正信偈の帰敬偈である「帰命無量寿如来」「南無不可思議光(如来)」も其々お名号であります。

2.法名と法名軸(札)の意味

ところで、中陰や年忌法要に際しては、慣習上、お内佛の前机に故人の法名札(軸)を掲げてお勤め致します。ここで「法名」というのは、故人がお剃刀(帰敬式)を受けて阿弥陀如来のご本願のみ教えを明らかにして下さったお釈迦様のお弟子となられた証として頂戴したものに他ありません。したがって、法名を頂戴された方は、私たちの今生での生き方を先導しお導き下さる尊い先達だとお敬いするのであります。

よって、法名軸(札)は、私たちの人生の先導役として尊んで法事に際して掲げるものだと受け止めて戴ければ幸いです。決して法名札や法名軸に故人の靈魂が宿ると云う風に考えることがあってはなりません。私たちがお救いに与る本体はあくまでお名号なのです。そのお名号は既にお内佛様の中央に頂戴している通りであります。合掌(玄宥記)。